

令和 3 年 6 月 3 日現在

機関番号：12601

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2019～2020

課題番号：19K22997

研究課題名（和文）明治期の大学紀要図版に関する研究

研究課題名（英文）Study of Illustrations in University Bulletins during the Meiji Era

研究代表者

坂口 愛子（藏田愛子）（Sakaguchi, Aiko）

東京大学・総合研究博物館・特任研究員

研究者番号：40843024

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、明治期の東京大学で出版された大学紀要のうち、『メモワール』『理科会報』『帝国大学紀要理科』『帝国大学紀要医科』の図版調査を実施した。各論文の図版使用やサインの有無等を把握することにより、描画を専門とする大学雇いの画工のみならず、論文執筆者がみずから図版の原画を手がけていた傾向が明らかとなった。明治期の東京大学による学術成果の国内外発信においては、論文に添えて研究内容を視覚的に伝える図版が重要な役割を担っていたと考える。

研究成果の学術的意義や社会的意義

東京大学初期の大学紀要の図版調査によって、当時の理学系や医学系の論文には、優れた描写能力と印刷技術によって作り出された図版が挿し込まれる傾向を看取することができた。大学紀要の図版に着目した本研究は、日本近代美術史において学問の視覚的表現を扱う研究の可能性を示す学術的意義があると考えられる。

研究成果の概要（英文）：Of the bulletins that were published at the University of Tokyo during the Meiji era, this study examined the illustrations in the Memoirs of the Science Department, University of Tokyo, Japan, the Rikakaisui, the Journal of the College of Science, Imperial University, Japan, and the Journal of the College of Medicine, Imperial University, Japan. By gaining an understanding of such aspects as the use of illustrations and the presence or absence of signatures in each bulletin, it became clear that the original illustrations in the bulletins were drawn by not only university-employed illustrators who specialized in drawing but also the authors of the bulletins themselves. Along with the bulletins, illustrations that visually conveyed the content of studies are thought to have played an important role in the domestic and global dissemination of academic findings from the University of Tokyo during the Meiji era.

研究分野：日本近代美術史

キーワード：大学紀要図版 画工

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## 1. 研究開始当初の背景

東京大学最初の大学紀要『メモワール』に載る図版の原画制作には、大学雇いの画工であった木村静山や野村重次郎、渡部鋏太郎らの原画制作への関与がみられる。大学紀要に載せる図版の原画制作は、明治 10-20 年代の東京大学に出仕した画工にとって、きわめて重要な仕事であったことが推察された。

明治期の東京大学刊行の大学紀要を取り上げた研究動向として、自然科学史及び日本近代美術史の先行研究が挙げられる。磯野直秀の論文「『メモア』と『理科会粹』」(『東京大学史紀要』第 10 号、1992 年、1-12 頁)では、『メモワール』及び『理科会粹』の書誌情報や刊行経緯が明らかにされている。磯野論文(1992)では、二種類の紀要が日本における最初の大学紀要であり、その編纂はお雇い外国人教師の主導によって進められたことが指摘されている。日本近代美術史を専門とする増野恵子の論文「Eruption of Bandai-san-図版に関するノート」(『1888 磐梯山噴火報告書』中央防災会議・災害教訓の継承に関する専門調査会、2005 年 3 月)では、1888(明治 21)年の『帝国大学紀要理科』第 3 冊第 2 号に載る図版とその描画傾向が詳細に検討されている。増野論文(2005)では、帝国大学理科大学の教授関谷清景と助教授菊池安による論文 The Eruption of Bandai-san の図版分析を中心に、自然科学系学術論文の図版制作における画工の長原孝太郎や野村重次郎らが明らかにされた。本研究の開始当初には、上記の先行研究を主要参考文献として参照しつつ、東京大学初期の大学紀要における図版の使用実態と原画制作者の解明を目指した。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、明治期の大学紀要に掲載された図版を分析することで、明治期の東京大学による学術成果の公表における図版の重要性を明らかにすることにあつた。分析対象としたのは、明治期の東京大学で出版された大学紀要のうち、『メモワール』(*Memoirs of the Science Department, University of Tokyo, Japan, 1879-1885 年*)、『理科会粹』(1879-1883 年)、『帝国大学紀要理科』(*The Journal of the College of Science, Imperial University, Japan, 1887-1897 年*)、『帝国大学紀要医科』(*Mitteilungen aus der Medizinischen Fakultät der Kaiserlichen Japanischen Universität, 1887-1908 年*)に掲載された図版である。いずれの大学紀要においても海外への学術成果発信が強く意識されており、優れた描写能力と印刷技術によって作り出された図版が挿し込まれている。当時の学術成果の公表においては、論文の重要性に加え、図版も研究内容を視覚的に伝える重要な役割を担っていたと考えられる。

## 3. 研究の方法

上記の研究目的に向け、(1)明治期の東京大学紀要に関する基本情報の把握、(2)原画制作者および論文執筆者の調査、(3)東京大学紀要の刊行背景の調査に努めた。具体的に(1)では『メモワール』『理科会粹』『帝国大学紀要.理科』に載る図版のタイトル、掲載論文名、原画

制作者、印刷所等の情報を整理した一覧を作成した。さらに(2)および(3)として、東京大学初期における大学紀要の役割を探るため、東京大学文書館所蔵文書の検索・閲覧を行い、帝大紀要に関連する文書の解読を進めた。東京大学学術機関リポジトリや東京大学文書館デジタル・アーカイブで公開されている大学紀要や大学文書の検索・閲覧をはじめ、オンライン上で公開されている情報の調査を中心とし、可能な範囲で大学紀要の原本の閲覧調査を実施した。

#### 4．研究成果

明治10年代に刊行された大学紀要『メモワール』『理科会粹』では、画工が図版の原画を手がけた例がみられたが、1887(明治20)年以降の『帝国大学紀要理科』になると、画工と論文執筆者の共同描画を示すサインや、論文執筆者単独の描画サインがみられた。論文執筆者の多くが外国人教師を占めていた『メモワール』『理科会粹』の図版制作においては、大学雇いの画工に原画を描かせ、画工のサインを入れた図版が見られたが、『帝国大学紀要理科』では日本人研究者が論文を執筆し、図版の原画制作もみずからおこなう場合が増えていったと考えられる。

『帝国大学紀要医科』については、東京大学総合研究博物館および東京大学医学図書館において閲覧調査を実施した。画工の近澤勝美のサインが記された図版が複数みられたことから、近澤勝美が『帝国大学紀要医科』に載せる図版の主要な原画制作者の一人であったことが明らかとなった。本研究の成果にもとづき、今後さらに大学紀要の図版制作の周辺、とくに近澤勝美の大学における活動詳細の解明に向けて研究を継続する。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------